

大好き！絵本

初瀬 恵美



『チューリップ』
さく：荒井真紀
出版社：小学館

先日、年長の女の子が「わたし、新しいおうちに、チューリップをうえたいな～」と言っていました。現在お家を新築中で、庭にチューリップを植えることを楽しみにしています。「チューリップって、何から育つと思う？」とたずねると「種？」と答えが返ってきました。やっぱりそう思うよね。「花と言えば種」というイメージがあるもんね。春と一緒にお花や野菜の種を蒔いたのでその印象もあるのかな？と思いつつ「球根だよ。」と言うと、「球根って何？」と質問が返ってきました。言葉で説明するよりも絵本！と思いこの『チューリップ』の絵本を一緒にみることにしました。

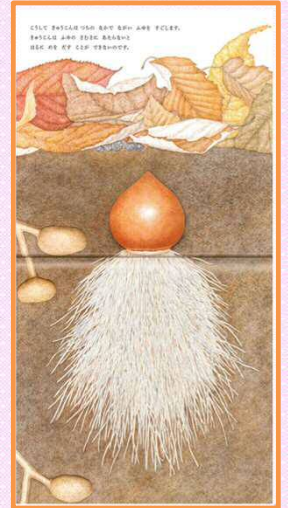
この絵本のはじまりは、手のひらに、球根がのっけて、「これは チューリップの きゅうこんです。チューリップは たねではなく、きゅうこんで そだてます。」と書いてあります。

そして、次のページをめくると球根の断面図が描かれています。おもわず「たまねぎみたい！」という言葉が子どもの口から飛び出しました。すると絵本にも「たまねぎみたいです。」と書いてありました。子どもが思うこと感じる事がそのまま文章に置き換わって始まる絵本です。

しかし、その後は、見たことがない土の中の様子が描かれています。実生活では球根を植えても目印をつけておかないと春になって芽が出るまで、どこに植えたか忘れてしまうくらい、地上では何の変化もあらわれないまま月日が経ちますよね。この絵本ではその期間に、球根がどうなっているのか、地面の下での変化が描かれています。また「きゅうこんは 心ゆの さむさに あたらないと はるに めを だすことが できないのです。」と、冬を乗り越えることの大切さも教えてくれているのです。今年は、球根を植えた後の忘れるくらいの月日も、とても大切な期間と思いつつ、春を待つことができそうです。

さらに、この絵本のもう一つの楽しみは、蟻やだんごむし、蜂や幼虫など、一緒に描かれた小さな生き物たちを見つけて楽しむことができるという点にもあります。虫好きの子ども達は「あ！だんごむし！！」「あ！ようちゅう！！何のようちゅうかなー？」と惹きつけられていました。チューリップだけでなく、「自然と共にある姿」が描かれていることが、なんかいいなと思います。

今年は「チューリップを植えたい」といった年長の女の子と一緒に、園にもチューリップの球根を植えたいと思います。花が咲くころは、卒園間近または1年生…ちよっぴり寂しくもありますが、かわいいお花が新しい門出をお祝いしてくれることでしょう。



誕生日おめでとう

